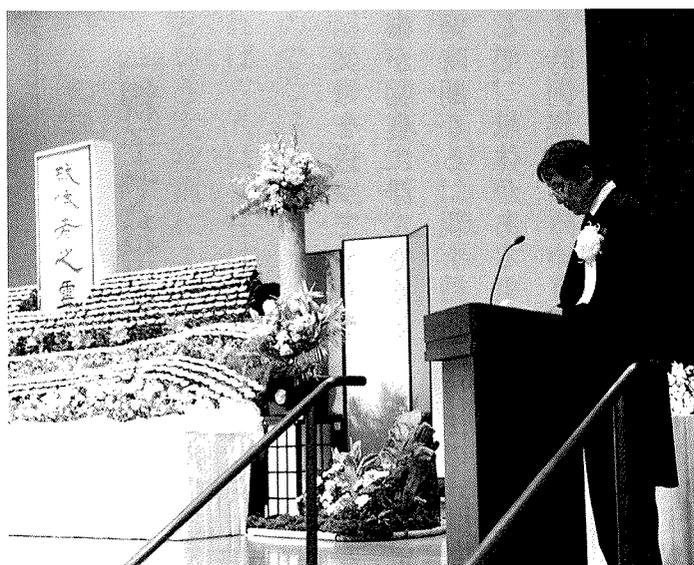


らレベルを一切落とさずに解剖学実習を実施することに決め、以下のように進めました。

学生には、実習開始前二週間の健康状態を提出させ、問題ない場合のみ実習参加を認めました。密集した状態を避けるためにロッカールームの使用を禁じました。実習室入口にサーモカメラを設置し、毎日入室前に検温して発熱のないことを確認しました。消毒液を設置し、手指の消毒を義務付けまし



令和元年度慰霊式（学長挨拶）

た。実習中、学生と教員は不織布のマスクを常時着用しました。解剖実習室は空気中のホルマリン濃度低減のために強力な空調が装備されており、室内の密閉状態を回避するのに大いに役立ちました。以上のような対策のもとに昨年度、本年度と実習を行いました。期間中若干名の体調不良者が出たのみで、新型コロナウイルスを出すことなく、無事に実習を終了することができました。いつ大学が入構禁止になったり感染者が出て実習が中止になるかわからないという不安と緊張の下で行われた実習でしたが、学生たちの士気は総じて例年より高く、充実した実習を行うことができました。実習終了時、学生たちは達成感で一杯になっているようでした。白菊会ホームページ (<http://www.nd.tsukuba.ac.jp/shiragikukai/>) に解剖実習の感想文が掲示してありますのでぜひご覧ください。学生たちの様子の一端をご理解いただけるのではないかと思います。

次に、白菊会運営に関する報告です。新型コロナウイルス感染拡大防止のためにやむをえずご遺体の引き取りを一時休止い

たしました（令和二年七月末日～八月末日）。また、昨年引き続き、本年度も筑波大学白菊会総会と篤志解剖体慰霊式の中止が決定されました。この場を借りて深くお詫びを申し上げますとともに、ご理解をいただけますようお願い申し上げます。

コロナ禍も含め一寸先は闇といった世相のなか、解剖学の教職員一同、臨機応変に対策を講じつつ解剖学実習を継続してゆくために力を尽くして参ります。どうぞ、今後とも変わらぬ御理解と御支援をお願い申し上げます。

